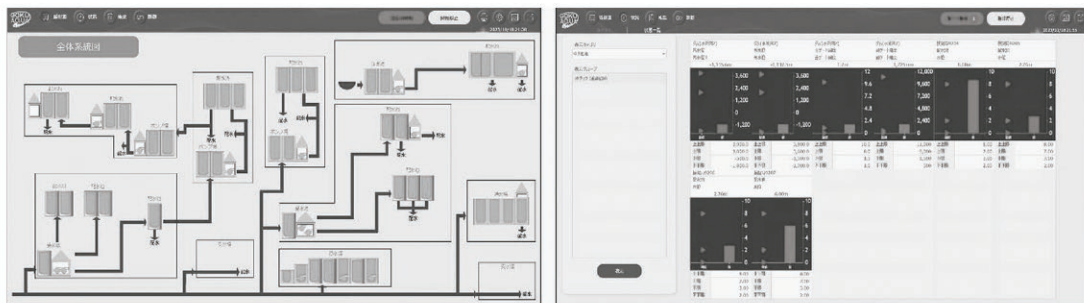


2024年(令和6年)2月20日(火曜日)



監視のイメージ

西菱電機は、地方自治体などの上下水道事業者が運営する水処理施設・配水施設などの運転状況の監視から制御までを一元管理する「中央処理装置」を開発した。汎用（はんよう）のパソコン（PC）で使用可能で、低コストで導入しやすくした。今後は、クラウド対応への開発を進め事業者のニーズに対応する。

同社は、三菱電機関連の上下水道システムのメンテナンスを継続して手掛けている。2017年にアンリツの近畿と四国の上下水道事業を引き継ぎ、体制を強化。顧客への認知活動や技術習得、知識習得などを推進し、中央処理装置の開発に着手。昨年11月に完成した。

## 上下水道を一元管理

### 西菱電機が「中央処理装置」開発

システムでは浄水場や下水処理場、ポンプ場など、遠隔地にある各子局テレメータ装置で収集した水位・流量・水圧・ポンプの運転状況などの情報は、親局テレメータ装置に自動送信。親局テレメータ装置に集約された情報は、中央処理装置で解析・ビジュアル化され、監視モニタに一括表示。管理する全施設の状況をリアルタイムに集中監視できるなど、効率的な維持管理業務を支援する。

事業者の対応規模は人口10万人規模。特徴は低コストで導入できることと、Webブラウザで監視ができること。監視画面は汎用のPCで確認することができる。また、さまざまな規模のシステムや顧客の設備の状況に合わせたシステム構築が可能。操作画面に操作専用エリアを設け、操作・設定の流れに合わせたボタン配置で構成するなど、見やすい画面構成で直感的な操作ができる。

現行はオンプレミスでの運用だが、今後は事業者のニーズに応じてクラウドに対応。通信回線の不通時の対応などのリスクもあるが、クラウドへのニーズが確実に上がっていることから、既設の顧客の声を聞きながら改良を重ねる。

これまでのつながりのある市町村への提案を強化するとともに認知度を高め、システムの更新時に、同社のシステムが選ばれるように提案を強化する。システム更新から保守に至る一貫したソリューションサービスを提供。将来の広域連携をも見据えた運転監視業務の改革や効率化、持続可能な水道インフラの安定供給を支援する。